



1. 道路下の利用
2. 私学問題に理解を
3. 技術者の交流
4. 失敗例の公表を

1. 最近、民衆駅とか駅ビルというものゝ建設され、これを駅付近の区画整備に利用して成功しているようである。火災の場合は列車の運行に支障があるだろうとか、切符売場が見つげにくいなどの欠点や苦情もあるらしいが、店舗の密集した駅前ゝ区画整理方法としては、これより良いものはちょっと考えられない。

同様な方法が都市計画道路の建設に使えないだろうか。最近、高速道路の高架橋が市内繁華街をとる例が多い。もちろん、在来道路を掘げてその幅員内に高架橋をつくるのが正攻法だろうが、どうしても在来の商店街に高架を作らねばならなくなる場合がある。このような際は、積極的に路下を利用して店舗や住宅を収容し、道路建設と住宅建設とを同時に実施してはどうだろうか。【S】

2. 1月から2月にかけて慶応大学の学費値上げが報道され、私学の経営問題が世間の注目をひいた。このことはあらゆる私学に共通の悩みで、土木科のある大学にも同様の傾向がみられよう。国立と私立の大学を比較すると、工学部については、学生数はそう違わないのに専任教員数、学生数/教員数、授業料、建坪/学生数はそれぞれ 1/2.7, 1/2.4, 10, 1/3.9 という極端なアンバランスがみられる。上の数字は昭和 39 年の教育白書の値であるが、きっと今年はもっと開いてきているのではなからうか。ある受験雑誌で昭和 40 年の入学定員をみたら、大ざっぱにいて、土木科の学生数は国立が 1000 名、私立が 1900 名という結果にすらなっている。アメリカの大学の授業料は、州立といえども州によって同一値と限らないので比較は困難だが、設備その他を考慮するところのような値は出ていないとみて間違いない。世間が必要としている私学出身の技術者を、安い学費とよい環境のもとで育成するために、政府はこの問題の解決に積極的な姿勢で取り組んでほしい。【C】

3. オリンピック関連工事も一段落したが、一般公共投資のおくれをとりもどすのはまだまだで、土木工事の発注はつぎの段階への大きな動きを見せはじめている。ここで注意すべきことは、土木工事の大きな流動性で、全体な技術者不足は否みえない事実であるが、各方面の技術者数のアンバランスも目立っている。

政府はこのたび各省間の人事交流の活発化をうちだしたが、われわれも、官庁、公団、コンサルタント、建設業間の技術者の交流を真剣にとりあげる必要がある。この際、大きく発展してきたコンサルタントが、その仲介的役割りを果たしうるのはなからうか。【J】

4. 来る5月に福岡で開かれる学会の大会で福田会長が橋梁事故に関する講演をされると仄聞して大に期待している。橋梁のみならずあらゆる土木工事で、大小を問わず失敗例のないことは皆無といってよからう。苦い貴重な教訓が成功への道をたどることを考えると、失敗は決して恥ではないはずである。どの工事記録を読んでも正面から失敗例を取上げた箇所にはまずぶつからない。「書いたのにボツにされた……」とは若い技術者の口からよく聞く言葉だが、事実だとすれば全くおかしい風潮である。同じようなミスを再び仲間を起こさせないために、進んで公表する勇気と信念を土木技術者全部が持てるようになれば、技術の進歩にどれほど貢献することか。年次学術講演会あたりがこの種のものゝ発表の場となり積極的な討議が行なわれるよう切望したい。また、「土木技術者は視野広くあれ」と叫ばれながら、個々の専門のほんの一部分のみが講演会に発表され、一般的な共通問題や、社会・経済と密着した国民の福祉に役立つ総合研究が乏しいと感ずるのはトピック子のみであらうか。学会としての研究課題の提示も一方法だろうし、講演会ゝ全般的なあり方を真剣に検討する時が来ているように思う。【E】